

国土利用計画 滝沢市計画の概要

滝沢市を取り巻く基本的状況

- 県都盛岡市に隣接し、秀峰岩手山を望む都市と自然の調和したまち
- 岩手県立大学をはじめとする大学や国・県の研究機関が数多く立地する研究学園都市
- 前期計画期間（H17→H28）と比べ、土地利用転換は全体として鈍化
- 人口増の鈍化・高齢化の進展

市土利用をめぐる状況変化・課題

人口減少社会の到来による市土への影響

- 既存住宅地の空洞化、空き家等の増加
- 地域経済の縮小
- 後継者不足による荒廃農地の増加
- 税収低下による市民サービスへの影響

◆土地の管理水準の低下への懸念
◆地域特性に応じた人口増加につながる土地利用が必要

自然環境と美しい景観の保全と利活用

- 農林業の担い手不足と経営意欲減退、気象変動等による自然環境の悪化
- 一方で、自然環境が有する多面的機能の重要性の高まり

自然環境の保全と同時に利活用が必要
優れた環境の活用、次世代への継承

自然災害への対応の必要

- 東日本大震災津波の経験を踏まえた安全性の強化
- 水害、土砂災害等の頻発化・激甚化
- 安全性を優先的に考慮した市土利用の重要性の高まり

◆安全で安心な地域づくりが急務
◆災害に対する市土の強靱化が必要

その他土地利用への多様な主体の関わりの増大、地方分権やグローバル化の進展、財政的制約等の背景についても考慮が必要

滝沢市の市土利用に関する基本方針

計画のねらい

適切な土地利用管理と土地利用の質的向上

自立した地域経済への対応

- ・ 県都盛岡市に隣接し、公共交通網が整備される地理的条件
- ・ 県中部に位置し、大学、研究機関が多数立地する社会的条件
- ◆産学官連携・異業種連携による新たな価値の創造による産業振興、企業誘致

自然を活かした生活

- ・ 岩手山麓に広がる雄大な自然
- ・ そこに広がる牧歌的な美しい景観
- ・ 都市的機能と自然が調和したまち
- ◆貴重な自然を財産として守り、生かす、保全地域と活用地域を明確にした土地利用

人とのふれあいが感じられる地域コミュニティの形成

- ・ 長い歴史の中で培われた地域コミュニティと伝統文化
- ・ これらを継承しつつ、今の時代に合った新たな歴史を育む取り組み
- ・ 地域の魅力を高め、若い世代の転入を促す
- ◆人とのふれあいが感じられる市民主体の地域づくりにつながる土地の活用

自然災害への対応

- ・ 東日本大震災津波での経験も踏まえた災害リスクの把握
- ・ 災害対応拠点等の適正配置やライフラインの代替性の確保
- ◆自然災害に備えた対策の構築と市民生活への影響を最小化させる市土の強靱化へ向けた取組

人口減少、経済グローバル化と地域経済の縮小、自然災害への対応等、様々な課題がある中、これらの市土利用を実現するには、以下のような考え方が重要

○第1次滝沢市総合計画における土地利用に係る施策の推進と市土の適切かつ効率的な利用

- ・ 地理的・社会的優位性を最大限活用し、盛岡広域圏における研究学園都市として人口減少に立ち向かう取組の推進
- ・ 自然と調和した防災・減災の促進など、複合的な効果をもたらす施策を積極的に推進

○市土の有効利用に向けた集約・連携型都市構造の構築

- ・ 市民の日常生活の基礎となる「地域拠点」の形成に向けた取組を推進
- ・ 市民の生活や就業、生産等の場として重要となる機能を集約させる「中心拠点」の形成に向けた取組を推進
- ・ 盛岡広域圏におけるICT産業集積を図る「産業拠点」の形成に向けた取組を推進

空間構成と拠点構成別の土地利用の基本方向

市街地	・ 都市基盤整備や未利用地の活用等 ・ 空き家等の有効利用・適切な管理 ・ コミュニティの維持・増進
農業集落地	・ 農地を活用した地域経済活性化 ・ 積極的な緑の維持・保全
森林	・ 憩い、交流の場としての利活用
中心拠点	・ 市役所、ビッグルーフ周辺への商業集積による都市機能強化
地域拠点	・ 小学校区単位で地域づくりを展開するための地域拠点づくり
産業拠点	・ IPUイノベーションパークへのICT関連産業の集積 ・ 滝沢中央SIC周辺への新たな企業立地促進

利用区分別の基本方向

相互関連性									
農地	森林	原野	水面・河川等	道路	住宅地	工業用地	その他の宅地	公共施設等用地	市街地

- ・ 農業基盤の整備、農地の高度利用、優良農地の維持・保全
- ・ 水源涵養、災害対策等多面的機能としての森林の整備・保全
- ・ 地域経済の活性化と雇用創出を図るための工業用地確保
- ・ 市役所、ビッグルーフ滝沢周辺の中心拠点への商業集積
- ・ 若年人口の流入を促す魅力ある住宅地の形成
- ・ 費用対効果を検討した市道整備と国道道の整備に向けた要望

規模の目標及び地域別概要

主な規模の目標

- 農地
H27:3,460ha ⇒ H34:3,415ha (18.7%)
中心拠点、産業拠点等での宅地への転換による減少を見込む
- 森林
H27:7,487ha ⇒ H34:7,484ha (41%)
現状程度で推移。適正な維持管理が課題
- 道路
H27:589ha ⇒ H34:602ha (3.3%)
現状程度で推移。国道道の整備が課題
- 宅地
H27:986ha ⇒ H34:1,024ha (5.6%)
目標人口達成のため増加を見込む

地域別概要

【北部】
・ 稲作、畑作を中心とした集団性が高い優良農地を生かした農林業振興のための農地確保

【西部】
・ 岩手山麓の自然や景観を維持・保全するとともに、これらの持つ多面的機能の利活用

【東部】
・ 研究学園都市機能を生かした産学官連携による盛岡広域圏におけるICT関連産業の集積

【中央部】
・ 市役所、ビッグルーフ滝沢を核とした中心拠点、滝沢中央SICを核とした産業拠点の形成

【南部】
・ 盛岡西リサーチパークを中心とした産業創出と農業振興のための農地確保

必要な措置の主な項目

- 土地利用関連法制等の適切な運用
- 地域整備施策の推進
- 土地利用に係る環境の保全及び安全の確保
- 土地利用転換の適正化
- 土地の有効利用の促進
- 土地に関する調査の推進